

西脇市スポーツ推進計画

西脇市スポーツ推進計画の策定にあたって

令和3年3月

西脇市教育長 笹 倉 邦 好

目 次

第 1 部 第 2 期計画の概要

- 1 計画策定の背景と目的
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間等

第 2 部 スポーツをめぐる現状等

第 3 部 基本理念と重点目標

第 4 部 西脇市のスポーツ施策

重点目標 第 1 - 1

重点目標 第 1 - 2

重点目標 第 1 - 3

重点目標 第 1 - 4

重点目標 第 2 - 1

重点目標 第 2 - 2

重点目標 第 2 - 3

重点目標 第 3 - 1

重点目標 第 3 - 2

重点目標 第 3 - 3

参考資料

第 1 部 第 2 期計画の概要

1 計画策定の背景と目的

2 計画の位置付け

3 計画の期間等

第2部 スポーツをめぐる現状等

1 西脇市のスポーツ振興の現状

2 社会・スポーツ情勢の変化

3 スポーツに関する市民アンケート結果

総計の資料を添付

第3部 基本理念と重点目標

oooooooooooo

第4部 西脇市のスポーツ推進施策

1 生涯スポーツの振興

全ての市民が生涯を通じて健康で活躍するために、生涯にわたり、スポーツに親しむことが必要です。

めまぐるしく変化する時代に対応できるように、環境整備を行い、機会を創出します。

【重点目標 第1-1】

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

人生100年時代を見据え、健康寿命の増進は重要な課題になります。健康交流等を軸に健康であるためのスポーツ活動の重要性や必要性を周知するとともに、誰もがいつでも気軽にスポーツを親しむための機会づくりを推進します。

(1) ライフステージに応じた機会の創出

◆ あそびを通じたスポーツの推進

幼児・児童期には身体を動かすことを好きになることが重要です。親子で参加できるレクリエーションやごっこ遊びなど楽しさを通じたスポーツ教室・イベントを開催します。

◆ 自由に参加できるスポーツ活動の創出（「する」スポーツの推進）

団体への加盟や教室への申込みに加え、スポーツをしたい人が自由に集まる施設や機会を創出し、ライフスタイルにあったスポーツ活動を応援します。

◆ 卓球を通じた生涯スポーツの推進

グラウンドゴルフやウォーキングに加え、年齢を問わず楽しめる卓球。市内公民館等へ卓球台を配布するとともに、交流大会等を開催します。

◆ ユニバーサルスポーツの推進

障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず、全ての人が分け隔てなく、スポーツを楽しみ、スポーツを通じて、互いを理解・尊重する共生社会の実現に向けて、ニュースポーツを利用したユニバーサルスポーツ大会の開催を推進します。

◆ **健康ポイント制度の活用を推進**

市民のみなさまが健康づくりやスポーツ活動に取り組むことで健康ポイントが貯まる制度です。楽しみながら健康づくりやスポーツ活動に参加する、きっかけづくりとして活用することを推進します。

◆ **世代間交流事業の実施**

地域の活性化や生きがいづくりを目指し、スポーツによる世代間交流イベントを開催します。

測定指標

- ・ あそびを通じたスポーツの推進に係るイベントへの参加者数

【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：50名/年】

- ・ 過去1年間に、週1回以上、スポーツ・レクリエーション活動をしたことがある市民の割合

【現状値（2018年度）：25.4% ⇒ 目標値（2025年度）：35.0%】

- ・ 過去1年間に、スポーツ・レクリエーション活動をしなかった市民の割合

【現状値（2018年度）：39.0% ⇒ 目標値（2025年度）：31.0%】

- ・ 身近に卓球ができる環境整備

【現状値（2020年度）：39.0% ⇒ 目標値（2025年度）：31.0%】

- ・ 世代間交流事業の実施及び参加者数

【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：1回/年 30名】

- ・ ユニバーサルスポーツ大会の開催及び参加者数

【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：1回/年 50名】

(2) **いつでも・どこでも・ひとりでもできるスポーツに推進**

◆ **市内ウォーキングコースの利用促進**

市内9コース、全長100kmのにしわきウォーキングコースでのウォーキング会やイベントを開催し、利用促進を行います。

◆ **市内ランニングコースの設定**

市民ランナーが集まるランニングコースとして、西脇子午線マラソンコース、西脇多可新人駅伝競走大会の北はりま田園ハーフマラソンコースや西脇

市役所外周コースを利用した、市民ランニングコースを設定します。

◆ **日常生活の中でできる運動の推進**

身体活動や運動の健康に対する効果についての知識は普及しつつあるものの、実際に行っている市民の割合は少ない。多くの市民が無理なく日常生活の中で運動を実施する方法の提供や環境の整備を行います。

測定指標

・ウォーキング会等への参加者数

【現状値（2019年度）：130名/年 ⇒ 目標値（2025年度：250名/年）】

・市内ランニングコースの設定及び整備数

【現状値（2020年度）：設定なし ⇒ 目標値（2025年度：5コース）】

(3) **人生 100年時代を幸せに過ごすためのスポーツ活動の推進**

◆ **健幸運動教室NI-C0の推進**

西脇市は健幸都市「スマートウェルネスシティー」を目指しています。フレイルや生活習慣病を予防するため、科学的根拠に基づいた、運動プログラムを活用した健幸運動教室への参加を推進します。

測定指標

・健幸運動教室NI-C0への参加者数

【現状値（2020年度）：200名/年 ⇒ 目標値（2025年度：400名/年）】

【重点項目 第1-2】

スポーツ活動への積極的な参加の推進

西脇市のスポーツ活動を支えている、西脇市体育協会、スポーツクラブ21への加入促進や支援や障害者、女性スポーツの推進など誰もが楽しむことができるスポーツ活動への積極的な参加を推進します。

(1) 市民主導型スポーツの推進

◆ スポーツクラブ21の支援

地域のまちづくりにおいて特性があるように、地域スポーツにも特性があり、それぞれの地域の楽しみ方や関わり方があります。

スポーツクラブ21はその地域にとってどのような存在でどのように活動するのが好ましいのか検証し、より良い体制づくりを推進します。また、今後の運営についても時代に併せた、運営が行えるよう支援します。

◆ 西脇市体育協会への支援

約70年にわたり、西脇市のスポーツの発展に寄与し、20の競技団体が加盟している西脇市体育協会に対し、スポーツ関係団体との連携や時代に対応した組織づくり等に対して支援します。

◆ 異種競技スポーツ交流大会の開催

スポーツ活動をする市民が親睦を深め、相互に協力することでこれからの西脇市のスポーツ活動を牽引できるよう、異種スポーツ競技交流大会を開催します。

◆ 出前講座の開催やスポーツ用具等の貸出しの推進

気軽にいろいろなスポーツを体験する環境を整えることでスポーツ活動の楽しさを体験できるよう、出前講座の推進やスポーツ用具等の貸出しを行います。

測定指標

・過去1年間に、週1回以上、スポーツ・レクリエーション活動をしたことがある市民の割合

【現状値（2018年度）：25.4% ⇒ 目標値（2025年度）：35.0%】

- ・ 過去 1 年間に、スポーツ・レクリエーション活動をしなかった市民の割合
【現状値（2018年度）：39.0% ⇒ 目標値（2025年度）：31.0%】
- ・ 異種スポーツ競技交流スポーツ大会への参加者数
【現状値（2020年度）：未開催 ⇒ 目標値（2025年度）：1回/年】
- ・ 出前講座のスポーツに関わる講座数
【現状値（2020年度）：1講座 ⇒ 目標値（2025年度）：5講座】
- ・ 貸し出しできるスポーツ用具の種類
【現状値（2020年度）：6種類 ⇒ 目標値（2025年度）：10種類】

(2) スポーツへの参加の推進

◆ 多種多様なスポーツ教室の開催

西脇市体育協会の指導によるスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさを体験してもらい、競技スポーツの底辺の拡大を行っている。

さらに多くの市民がスポーツ活動に積極的に参加できるよう、民間等の活用により多くの競技において教室を開催します。

◆ 女性が参加しやすいスポーツ活動の推進

スポーツを通じた女性の社会参画・活躍を促進することが重要です。しかしながら、女性のスポーツ実施率が男性に比べて低いこと、中学生の女子の約20%が「スポーツが嫌い」「やや嫌い」とこたえるなど、運動習慣の二極化が見られることや、20代から40代の女性のスポーツ実施率が特に低いこと、スポーツ指導者やスポーツ団体における女性役員の割合が低いことなど、スポーツの様々な側面で女性の活躍や女性の参画の拡大を推進します。

◆ 障害者スポーツの振興

障害者がスポーツを通じて、自らの可能性にチャレンジし、仲間との交流やコミュニケーションが深められるよう振興するもので、競技レベルにおいて、障害者が選択できるよう、兵庫県障害者スポーツ協会と連携し、体制づくりを行います。

◆ ユニバーサルスポーツの推進（再掲）

障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず、全ての人が分け隔てなく、スポーツを楽しみ、スポーツを通じて、互いを理解・尊重する共生社会の実現に向けて、ニュースポーツを利用したユニバーサルスポーツ大会の開催を推進します。

測定指標

・ スポーツ教室の種目数

【現状値（2020年度）：8種類 ⇒ 目標値（2025年度）：13種類】

・ スポーツを楽しむための託児制度導入の検討

【現状値（2020年度）：未検討 ⇒ 目標値（2025年度）：導入】

・ 家族で楽しめるスポーツの環境整備の推進

【現状値（2020年度）：未検討 ⇒ 目標値（2025年度）：導入】

・ 女性がスポーツを楽しむ環境整備や啓発の推進

【現状値（2020年度）：未検討 ⇒ 目標値（2025年度）：導入】

・ 障害者スポーツイベントの開催及び参加者数

【現状値（2019年度）：1回 ⇒ 目標値（2025年度）：2回】

【現状値（2019年度）：50名 ⇒ 目標値（2025年度）：100名】

・ のじぎく障害者スポーツ大会への参加者数

【現状値（2019年度）：5名 ⇒ 目標値（2025年度）：5名】

・ のじぎく障害者スポーツ大会への参加者数

【現状値（2019年度）：5名 ⇒ 目標値（2025年度）：5名】

・ ユニバーサルスポーツ大会の開催及び参加者数（再掲）

【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：1回/年 50名】

【重点目標 1－3】

子どものスポーツ活動の推進

スポーツは、青少年の心身両面の健全な発達に資し、心の豊かさや生きがいを与えてくれるものです。ところかが、外遊びやスポーツ活動時間の減少など、社会環境や生活様式の変化により、幼児期や学齢期において主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を、生活全体の中で確保していくことが難しくなっています。

よって、これまでと変わることなく、子どもたちがスポーツ活動に親しむ事ができるよう、国の動向を注視しつつ、子どものスポーツ活動を地域で支えることを推進します。

(1) 子どものスポーツ活動の充実

◆ 多種多様なスポーツ教室の開催（再掲）

西脇市体育協会の指導によるスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさを体験してもらい、競技スポーツの底辺の拡大を行っている。

さらに多くの市民がスポーツ活動に積極的に参加できるよう、民間等の活用により多くの競技において教室を開催します。

◆ スポーツ少年団等ジュニア育成事業の推進

スポーツ活動を通して、青少年の心身の健全な発達を目的とするスポーツ少年団の育成や支援を行います。

測定指標

・ スポーツ教室の種目数（再掲）

【現状値（2020年度）： 8 種類 ⇒ 目標値（2025年度）： 13 種類】

・ 子どものスポーツ活動を支える団体数

【現状値（2020年度）： 15 団体 ⇒ 目標値（2025年度）： 15 団体】

(2) 学校でのスポーツ活動・運動の充実

◆ 小・中学校におけるスポーツ活動の推進

小・中学校における授業やレクリエーションではスポーツ活動の楽しさを感じ、取り組むきっかけづくりを行うとともに、いきいき体力づくりにおいては楽しみながら体力の向上ができるよう事業継続を行います。

◆ クラブ活動、運動部活動における外部指導者制度の推進

外部指導者制度を活用し、教師の負担を抑えるとともに、顧問と外部指導者が連携する事で、児童生徒は今までと変わらないスポーツ活動を行え、競技力の向上だけでなく、個人の心身の成長を促し、人間関係を育てる環境づくりを推進します。

◆ 学校と地域スポーツ団体との連携の推進

近い将来、中学校の運動部活動は地域スポーツへ移管される。

生徒が今までと変わりなく、スポーツ活動ができる環境や受け入れ体制を構築します。

測定指標

・クラブ活動、運動部活動における外部指導者の採用数

【現状値（2020年度）：3件 ⇒ 目標値（2025年度）：10件】

・地域スポーツ団体の運動部活動受入数

【現状値（2020年度）：0件 ⇒ 目標値（2025年度）：3件】

【重点目標 1－4】

スポーツ指導者の育成・確保・活用の推進

スポーツ推進委員は、生涯スポーツ振興における行政と市民を結ぶパイプ役として重要な役割を担っています。また、スポーツ活動をめぐる現状の課題解決について、リーダーとしての期待があることから、推進委員のさらなる資質向上と活用を図ります。

(1) スポーツ推進委員の資質向上・活用

◆ スポーツ推進委員の資質向上

スポーツ推進委員は地域スポーツ活動の育成、支援のキーパーソンとして期待がかかります。全国スポーツ推進委員連絡協議会等が開催する研修の受講はもとより、これからのスポーツ活動がどのように変貌していくか、常に注視して、市民が求めるニーズに対応できるよう自己研鑽に励み、組織の充実を図ります。

◆ スポーツ推進委員によるスポーツ振興自主事業の開催

市民がスポーツ活動に親しむ環境を整備するため、また、働き盛りの年齢層、高齢者、女性や障害者などがスポーツ活動を行うきっかけづくりとしてにスポーツ推進委員による自主事業を開催します。

測定指標

- ・ 全国スポーツ推進委員連絡協議会等が開催する研修会への参加者数

【現状値（2019年度）：20名 ⇒ 目標値（2025年度）：20名】

- ・ 障害スポーツ指導員資格取得数

【現状値（2019年度）：2名 ⇒ 目標値（2025年度）：5名】

- ・ 自主事業への参加者数

【現状値（2019年度）：100名 ⇒ 目標値（2025年度）：200名】

2 競技スポーツの振興

競技スポーツの振興については、西脇市体育協会を中心として大会の開催を行うほか、全国規模の大会への参加者について支援を行うなど、生きがい、夢と希望に溢れたトップアスリートの卵を応援します。

【重点目標 2 - 1】

各種スポーツ大会の開催支援

競技スポーツに励むための一つのモチベーションとして、大きな大会への参加やその努力や活躍についての支援があります。継続的な大会の開催や支援について西脇市体育協会や(財)西脇市文化・スポーツ振興財団と連携し継続します。

(1) 各種競技大会の開催支援

◆ 全国規模の大会等の開催支援

西脇子午線マラソン大会や西脇多可新人高校駅伝競走大会など西脇市内で開催される全国規模の大会を支援します。

◆ 各種競技スポーツ大会等の開催支援

西脇市体育協会がスポーツ振興や競技力向上を目的に開催する各種競技スポーツ大会において、(財)西脇市文化・スポーツ振興財団と連携して支援を行います。

◆ 全国大会をはじめとする各種競技大会参加への支援

毎年、夢や希望に溢れたトップアスリートの卵たちが各種全国大会等へ出場し、その後、日本のトップアスリートとして活躍している者も少なくありません。

西脇市では(財)西脇市文化・スポーツ振興財団と連携し、引き続き支援を行います。

◆ スポーツ表彰制度の推進

継続的なスポーツ活動の発展について、スポーツ振興への寄与やスポーツ活動での功績が顕著な者、優秀な成績を残した者を称える事が重要であることからスポーツにおける表彰制度を継続します。

測定指標

・西脇市文化・スポーツ賞、西脇市少年スポーツ・文化大賞「絆賞」、鈴木啓示賞、丸山完二賞、体育協会表彰等の継続的な選考

【現状値（2020年度）：選考 ⇒ 目標値（2025年度）：継続】

【重点目標 2-2】

トップアスリートによる交流会やスポーツ教室の開催、支援

トップアスリートのプレーを観戦することで自己意識が高揚し、競技スポーツへの関心が高まります。

交流会やスポーツ教室を開催することは市民がトップアスリートを直接感じ取れる絶好の機会となることから継続的に開催します。

(1) トップアスリートによる交流会やスポーツ教室の開催・支援

◆ トップアスリートによる教室等の開催

- ・ プロ野球OB会による少年野球教室の開催支援
- ・ Vリーグ2部リーグ所属 兵庫デルフィーによる少年少女バレー教室の開催支援
- ・ 西村卓二氏による卓球教室の開催及び支援
- ・ その他トップアスリートとの交流会の開催及び支援

測定指標

・トップアスリートによるスポーツ教室等への参加人数

【現状値（2019年度）：400名 ⇒ 目標値（2025年度）：400名】

【重点目標 2－3】

プロリーグの開催

プロの試合を観戦することは、将来、トップアスリートになる夢を抱いた子どもたちへ良い影響を与えるだけでなく、市民誰もが「応援」という形でスポーツに携わることができ、スポーツ活動に参加するきっかけになります。

そのため、プロリーグの開催の支援を継続的に行います。

(1) 各種競技プロリーグの開催・支援

◆ 「みる」スポーツの推進

- ・ Vリーグ2部リーグ 兵庫デルフィーの公式戦の開催支援
- ・ プロ野球独立リーグ 三田ブルーサンダース公式戦の開催支援

測定指標

・ プロリーグの試合開催数及び集客数

【現状値（2019年度）：5試合 ⇒ 目標値（2025年度）：14試合】

【現状値（2019年度）：300名 ⇒ 目標値（2025年度）：500名】

3 スポーツの環境整備・充実・有効活用

少子高齢化に伴う人口減少や社会体育施設の老朽化に伴い、利用実績や予測を踏まえて、計画的なスポーツ施設の管理を行います。

また、新たなスポーツ活動へのニーズに対応するため、民間と協力しながら施設設置の可能性を検討します。

【重点目標 3－1】

スポーツ施設の整備・充実・有効活用

スポーツ活動を行う上で、体育施設の充実は必要不可欠である。西脇市の人口に対する体育施設数は十分といえるが、利用方法、利用時間や競技種目に配慮するとさらなる利用施設の分散化や新たな整備も必要となり、既存施設の改修・修繕整備も必須となります。

(1) スポーツ施設の改修・整備

◆ スポーツ施設の改修・整備

西脇市公共施設長寿命化計画により、既存体育施設を修繕及び改修を行い、継続活用することを決定している。

ただし、施設の老朽化や耐震化の必要など、多額の修繕費がかかる場合は費用対効果の観点から継続及び廃止の是非を検討します。

◆ 各地区のスポーツ拠点の推進

より多くの市民にスポーツ活動を推進するにあたり、地域スポーツの活性化は欠かすことができません。そのためには地域にスポーツ拠点が必要となり、地区の小中学校のグラウンド・体育館を拠点として推進します。

測定指標

・社会体育施設の長寿命化個別計画の策定

【現状値（2020年度）：1施設 ⇒ 目標値（2025年度）：5施設】

(2) スポーツ施設の管理運営

スポーツ施設の管理運営を地域や利用者の自主的活動に委託するなど、管理運営の弾力化を図るとともに、必要に応じて指定管理者制度を導入し、管理運営の効率化や利用時間の拡大、利用者サービスの向上を進めます。

◆ 市民との協働によるスポーツ施設の維持管理

地域活性化を目的とした、地域スポーツ活動の在り方を考える上で、受益者負担の観点から市民や利用者との協働によるスポーツ施設の維持管理を推進します。

◆ 指定管理者制度の活用

公共施設の中で貸館業務だけでなく、自主事業により西脇市のスポーツ活動の活性化に寄与できる施設については、必要に応じて指定管理者制度を活用します。

測定指標

・ 市民等と協働管理する社会体育施設数

【現状値（2020年度）：4施設 ⇒ 目標値（2025年度）：8施設】

・ 指定管理制度の活用

【現状値（2020年度）：2施設 ⇒ 目標値（2025年度）：2施設】

(3) スポーツにおける安全の確保と事故の予防

スポーツ活動中の事項防止策の啓発や社会体育施設へのAEDの配置及び感染症対策の徹底を行います。

◆ 安全の確保と事故の予防

スポーツ活動中の事故防止についての啓発を行うとともに、スポーツ活動中の心肺停止事故に対応できるようAEDを配置します。

また、新型コロナウイルスのような感染症の拡大防止策として、利用者や利用設備の消毒の徹底を行います。

測定指標

・ AEDの設置のある社会体育施設数

【現状値（2020年度）：16施設 ⇒ 目標値（2025年度）：16施設】

【重点目標 3－2】

スポーツ情報の発信等の推進

スポーツ活動に興味のある市民が気軽にスポーツイベントの開催情報やスポーツ活動団体の活動情報などをWEB上に集約し発信します。

(1) スポーツ情報の収集・発信

スポーツイベント、スポーツ施設の概要、スポーツ活動団体の活動情報などがインターネットを介すればいつでも、どこでも気軽に入手できるようコミュニティサイトの構築を検討します。

◆ スポーツコミュニティーサイトの構築

スポーツイベント、スポーツ施設の概要、スポーツ活動団体の活動情報などが揃うスポーツコミュニティーサイトを構築し、スポーツ活動情報の一元化を図る。また、スポーツ活動に対するアンケート調査なども行えるよう調整を行います。

測定指標

・ 西脇市まるごとスポーツ広場（仮称）の構築

【現状値（2020年度）：未構築 ⇒ 目標値（2025年度）：構築】

【重点目標 3-3】

スポーツ活動推進組織の強化

少子高齢化や人口減少に対応し得る、次世代のスポーツ組織の構築について、研究を進めるために連携の強化を図ります。

また、スポーツ活動を行う上で必要な「ささえる」スポーツに従事するボランティアの組織化について推進します。

(1) スポーツ関係機関の連携強化

西脇市体育協会、西脇市スポーツクラブ 21 連絡協議会、西脇市スポーツ推進委員会を軸に少子高齢化や人口減少に対応し得る、次世代のスポーツ組織の構築について、研究を進めるために連携の強化を図ります。

◆ スポーツ交流ネットワークの構築

次世代のスポーツ活動の柱になるであろう地域スポーツを中心にネットワークの構築について研究します。

◆ 市内スポーツ関係団体等連携強化の推進

西脇市体育協会、西脇市スポーツクラブ 21 連絡協議会、西脇市スポーツ推進委員を軸に少子高齢化や人口減少に対応し得る、次世代のスポーツ組織の構築について、研究を進めるために連携強化を図ります。

◆ 県・他の市町村との連携、定住自立圏構想の推進

少子高齢化や人口減少に伴い、近隣市町が互いに補完しながら行政の課題解決や市民ニーズへ対応を行えるよう、北はりま広域定住自立圏構想を推進します。

測定指標

- ・ 市内スポーツ団体の連携による次世代スポーツ組織の構築研究会の開催
【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：2回/年】

(2) ボランティアの育成と組織化

スポーツ活動において必要不可欠な「ささえる」スポーツに従事するボランティアを育成し、組織化を目指します。

◆ スポーツボランティアバンクの検討

少子高齢化や人口減少に伴い、スポーツ活動やイベント等を行うためのスタッフが不足しているため、組織化により解消を目指します。

◆ 「ささえる」スポーツの推進

スポーツ活動や大会等のイベントをボランティアスタッフとして支えることもスポーツ活動への参加であることを啓発するとともに、「ささえる」スポーツから「みる」スポーツへ移行を促し、生涯スポーツへの参加を推進します。

測定指標

・ スポーツボランティア講座の開催

【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：1回/年】

・ スポーツボランティアバンクの開設及び会員数

【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：開設】

【現状値（2020年度）：未実施 ⇒ 目標値（2025年度）：20名】

参考資料